

1 元気でくらしよい倉吉について

(1) 市の現状と人材及び住居等の確保

県立美術館開館に向けた連携施策、企業誘致の促進による雇用と定住対策、防災施策の他、子ども世帯などが「暮らしやすい」まちづくり施策を盛り込んだ予算編成、一般会計予算規模342億円、過去最大規模となる令和6年度当初予算案が上程されました。

県立美術館、グッドスマイルカンパニー、ホテルルートインをはじめ、企業誘致や旧グリーンスコレセきがね再生事業等400人以上の新たな雇用が見込まれています。2点お伺いします。

問い①

①人材確保についての施策です。関係企業やハローワーク・県等との協議及び連携はできていますか。多くの業種で人手不足となっている中、人材の奪い合いでなく、新たな雇用創出策はあるのですか。

②住む場所の確保についてです。アパートなど一時的な居住の他、移住定住につながる住居の確保が必要です。昨年、定住対策として住宅取得補助や空家の活用策など以前よりも充実させた施策を打ち出しました。その実績と効果はどうなっていますか、また、令和6年度さらなる効果的な移住定住策があるのですか。

市長答弁

①有効求人倍率1.5倍、製造業などは非常に厳しい。雇用の確保が厳しいという声を聞きます。各種機関との協議、情報交換をしながら、市内企業への支援策をとってきています。本年度奨学金の支援、移住就職者への家賃支援、市内企業へのインターンシップなどの取組をしています。しかし、奨学金の支援3件、家賃支援3件とまだ利用状態は不十分です。

グッドスマイルカンパニーの工場長さんの話では、「公募をしている中でこのような施策は雇用の呼び水として非常によい取組をしていただいた。」とお礼の言葉もありました。グッドスマイルカンパニーの採用状況は、令和5年度3月見込みは26名で県外は4名、令和6年4月の内定者は8名、県外は4名と聞いています。ということで、これらの支援策が有効に作用したと思っています。ただ、利用実績がまだまだ低い。支援制度を強化・拡充したが、情報の伝達、

届け方の難しさと痛感しています。制度の周知に努めていて、保険セールスの方がお知らせに回っていただいたり、年末年始に倉吉商工会議所と共催で倉吉総合産業高校の1年生向けへの企業説明会を実施、倉吉農高への説明会とあわせて実施した。周知に努めたい。

②若者転入奨励金8件、結婚新生活支援補助金9件、住宅取得補助金11件(令和5年1月現在5件)と一部利用の成果もある。

令和6年度の新たな取り組みについて。結婚新生活支援制度の世帯所得要件500万円の廃止をしたり、対象年齢を国の制度と同様に39歳に引き上げたり、29歳以下の若い夫婦の場合は、通常の支給額の2倍の60万円を支給するようにした。これらは県内4市の中では倉吉市のみが実施、所得要件の廃止については、県内では日吉津村のみが実施していたが、倉吉市は他の市町との差別化を図った。固定資産税減免制度の廃止と伴い、既存の住宅取得補助金の対象者も39歳以下の世帯も追加した。

たくさんの雇用が必要となるが、社宅の支援について工場の整備にあわせて支援制度を設けている。社宅や寮の整備をする企業に対しても県との連携を図って支援策を検討していこうと考えている。他の自治体の取組も参考にしながら、企業のニーズを把握し、取組を展開したいと考えている。

藤井

高校生の話も出ていたが、取組を通して人材の流出を防ぐことが大切。社宅等の確保など一安心はした。ただ、数が数なのできちんとした策をして欲しい。

令和6年度予算に関して、2月29日の日本海新聞には「超」積極型であるとか「財政への影響が懸念されるが・・・」とかあった。令和6年度予算編成資料を見ると、基金残高、特に財政調整基金と減債基金合計が令和4年決算37.4億から令和6年予算16.2億に大きく減っている。また、臨時財政対策債を除いた地方債残高も大きく増えている。

しかし、これは市長が言われるように「倉吉市が大きく発展するために地域発展に資する予算」だと理解し、行政と議会、産業界等が一体となったチーム倉吉の取組をしていかなければならない。」と考えている。